



NISHI EYE HOSPITAL

西眼科だより

Nishi Eye Hospital

第9巻3号

(季刊誌)

2007年10月発行

編集責任者：倉橋美雪

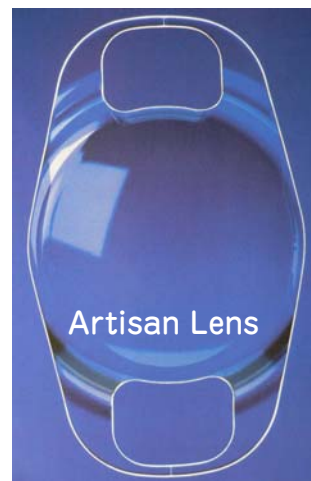
西眼科病院 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 4-14-26 TEL: 06-6981-1132

〈ホームページ〉<http://www.nishi-ganka.or.jp> 〈e-mail〉office@nishi-ganka.or.jp

新・特殊治療のご案内

①屈折矯正手術

現在、屈折矯正手術(近視矯正手術)には多くの手術手技があり、当院でも数種類の手術を施行しております。LASIK(レーシック)・Epi-LASIK(エピレーシック)・LASEK(ラセック)・PRK(ピーアールケー)はエキシマレーザーを角膜に照射して近視を矯正する手術です。高度近視、円錐角膜、角膜が薄くてLASIKを受けられない方には Phakic IOL(フェイキックアイオーエル)という新しい近視矯正手術を施行しております。Phakic IOLとは白内障手術を応用した手術です。白内障(治療)手術では、水晶体を取り除き人工眼内レンズを挿入しますが、Phakic IOL では水晶体をそのまま残し、前房レンズ(Artisan Lens)を挿入します。前房レンズは特殊なプラスチックで作られているので生体反応は起こりません。手術時間は約 20 分。局所麻酔で手術を行いますので痛みはありません。当院では月に一度 LASIK 無料説明会を開催しておりますので、ご興味のある方は是非お越しください。詳しくは西眼科病院のホームページ／パンフレットを御覧ください。



②23 ゲージ硝子体手術

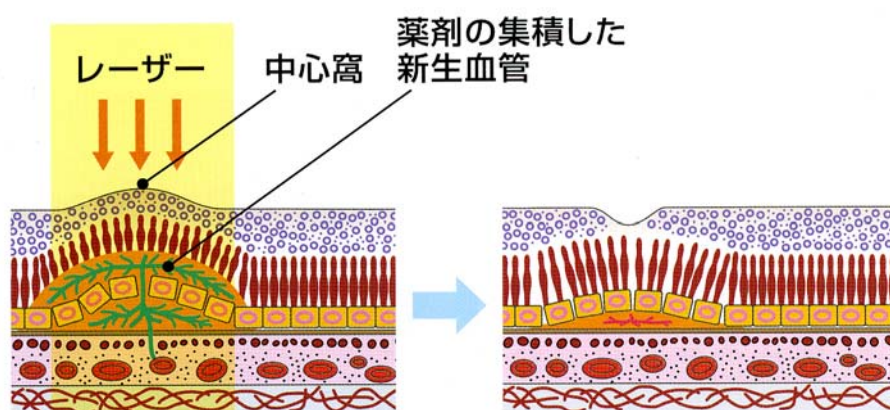
23 ゲージ(0.72mm)とは硝子体を切除する器具の太さを表す単位です。従来、もっと太い 20 ゲージ(1.15mm)で手術されてきました。またより細い 25 ゲージ硝子体手術もあります。この 23 ゲージ硝子体手術は 20 ゲージ手術の長所を持ち、かつ 25 ゲージ手術の短所を補う手技として最近注目されています。その特徴は、切開創を短時間で作成でき、また切開創の工夫によっ

て創口の縫合が不要なことです。これによって術後の異物感や不快感が大幅に減り、回復も早くなりました。その結果、入院期間が(症例により異なりますが)1～5日と大幅に短縮されました。

③加齢黄斑変性症の治療

光線力学療法(PDT:Photodynamic Therapy)

加齢(老人性)黄斑変性症に対する最新治療の一つです。特定の波長の光線を吸収する物質を静脈内に注射すると、この物質は主に新生血管に貯留します。そこで新生血管を有する黄斑部に対し特定の波長の光線を照射すると同物質から細胞毒を有する活性酸素が放出され、新生血管を破壊します。一時的に、あるいは長期的にも視力が改善する場合がありますが、基本的には視力低下の危険度を減少させるところに、この治療の意義があります。必ずしも全部の症例がこの方法で治療できる訳でなく、適応としない症例もあります。更に新生血管が再び発生してくる事もあり、その時は再度治療する必要があります。



抗新生血管薬

加齢黄斑変性症の治療として、当院では「アバスチンの硝子体内注射」、「ケナコルトの硝子体内注射、及び、テノン嚢下注射」等を施行しております。

④眼瞼痙攣

眼瞼痙攣とは、眼輪筋の発作性の痙攣を伴う疾患です。この治療法は、眼輪筋の周囲に高倍率に薄めたボツリヌス菌の毒素を注射し、眼輪筋を弱く麻痺させ痙攣を取り除くという方法です。当院では医師全員が(厚生労働省の指定する)講習を受け資格を取得しております。

⑤外来小手術

当院では、霰粒腫、翼状片、眼瞼下垂、内反症(二重瞼)、鼻涙管閉塞症にNSチューブ(シリコンチューブ)の留置、結膜弛緩症、および眼瞼皮膚弛緩症etc あらゆる眼科疾患の診断・治療・手術を行っております。